

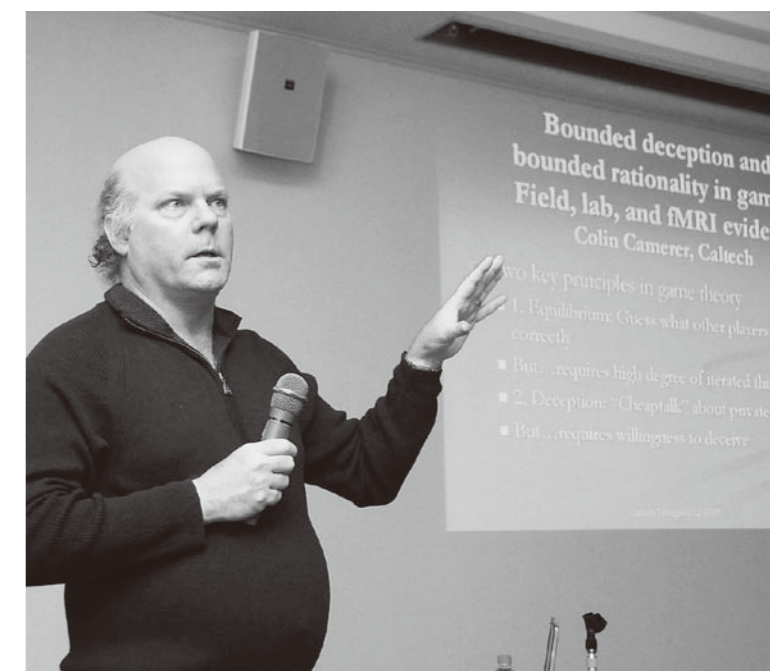


ドイツ・ボン大学の神経倫理学者、ヘンリック・ウォルター教授

社会的心の脳メカニズム

第2回 玉川ーカルテック合同ワークショップ
好きだから選ぶの？ 選んだから好きなの？

坂上雅道 ●脳科学研究所主任



TVCMでおなじみ、カリフォルニア工科大学の経済学者、コーリン・キャメラ教授

二〇〇七年二月六日から八日まで、玉川大学研究室棟において第二回玉川ーカルテック（カリフォルニア工科大学）合同ワークショップ「社会的心の脳メカニズム」が開かれました。

これは玉川大学とカルテックとの間に交わされた教育研究協定に基づき、年に一度開催されているワークショップです。今回は玉川大学、カ

ルテック以外にも内外から著名な研究者を講師として招き、三日間にわたって講義と討論を行いました。講師以外の参加者も、玉川ーカルテックの学生に加え、日本の脳研究を支える若手からシニアまで約一〇〇人が集まりました（応募が殺到して参加をお断りしなければならなかったことは残念でした）。

今回のテーマは「社会的心の脳メ

カニズム」です。人と人、心と心が触れ合うとき、私たちの脳はどのように働いているのか、この問題について、世界最先端の研究の成果を聞いて議論しようというのが目的です。

人文・社会科学は宝の山

脳は、タンパク質や脂肪からできたニューロンという細胞（神経細胞）が何百億個も集まり、電気のやりとりを行うことによって働きます。脳がどのような物質からできていて、どんな構造をしているか、細胞でどのように電気が発生して、それがやり取りされるのか？ こういった生物学的な問題は、ここ十年かの研究でかなりわかってきました。

しかし、そのような電気のやり取りによって、どのようにして私たちの心が生まれるのか、という理解はまた別の問題です。そもそも心とはどんなものなのか？ 経済学や文学、哲学にはこの問題について考えてきた長い歴史があります。

人文・社会科学は心を理解するためのヒントが詰まった宝の山です。

したがって、私たちの複雑な心の脳メカニズムを理解するためには、生物学的な脳研究だけでなく、人文・社会科学が明らかにしてきた心と、脳の機能との関係を知らなくてはなりません。そのためには、脳科学者と人文・社会科学者が協力して研究を行う必要があるわけです。

今、アメリカやヨーロッパでは脳科学者と人文・社会科学者との共同研究が盛んになってきました。そして、神経経済学や神経倫理学といった新しい学問が誕生しています。

人は皆、無意識に支配されている？

今回のワークショップでも、神経経済学の世界的リーダーで大和証券のコマーシャルでもおなじみのカルテックのコーリン・キャメラ教授や、哲学者でもあり精神科医でもあり倫理感の脳メカニズムについての著名な著書のある、ドイツ・ボン大学のヘンリック・ウォルター教授、音楽の脳メカニズムについて遺伝子にまでさかのぼって研究しているイギリス・ゴールドスミス大学のロー

レン・スチュワート教授など、多彩な顔ぶれが最先端の脳研究について報告してくれました。

中でも、カルテックの下條信輔教授の報告は私たちの常識を覆すものでした。写真を見て、どちらの顔が好きか答えなさいと言われると、どちらが自分の好みか考えて判断し答えるわけですが、眼球の動きや脳の活動を同時に測定すると、ほとんどの場合、私たちの「意識」より先に脳はどちらを選ぶか決めているというのです。脳の奥深くの部位が「無意識」のうちどちらが自分の好みか決めて、その結果を「意識」をつかさどる部位に教えてあげる結果、私たちはどちらが好きかわかるわけです。

「意識」は自分で決めたつもりですが、実は「無意識」に教えてもらったことを繰り返しているだけだということです。脳科学研究所の丹治順所長や我々のグループ、それにUC LAの動物心理学者、バーナード・バレーン教授は、そのような判断の脳機能のより詳しいメカニズムを動物実験の結果から説明しました。

今回はカルテックから大学院生な

ど一〇人の若手研究者も参加しましたが、ワークショップ終了後は、玉川や他の機関の若手研究者と懇親会やカラオケで大いに交流しました。

また、研究所見学会も開かれ、玉川大学の脳科学研究所の研究設備のすごさに参加者のみなさんは目を見張っていました。

文系理系の枠を超えた広い視野を持つ新しい脳科学研究をカバーし、しかも基礎的な研究との連続性も議論される国際レベルの会議は、世界でもまだそれほど行われていません。今回は玉川大学とカリフォルニア工科大学の連携が世界の脳研究の進歩にいかんにか貢献しているかを示すとともに、新しい脳科学研究の最新の成果が日本の研究者を大いに刺激する会になりました。



国内からも多くの脳研究者が参加し、有意義な交流の場となりました